

関連する事業

■勝連城跡ライトアップ事業

うるま市の課題である滞在型観光への転換を目的に、城跡のライトアップを行い、夜間における新たな観光コンテンツを創出し、来訪者の滞在時間延伸による飲食機会、宿泊機会を増やし、周辺一帯の観光消費拡大を図ります。



勝連城跡ライトアップイメージ

■県道16号線における電線地中化事業

勝連城跡に相応しい景観の形成を目的に令和4年度(2022年度)にかけて電線の地中化を行います。



電線地中化イメージ



周辺予定地から見える景観 コピタ池に映る勝連城跡



うるま市 都市建設部 勝連城跡周辺整備室
〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号
TEL.098-923-7606 FAX.098-923-7604
E-mail:katsurenjo-seibi@city.uruma.lg.jp



うるま市 勝連城跡周辺整備事業

(第三次改訂版)



2020年10月
うるま市 都市建設部 勝連城跡周辺整備室

うるま市 勝連城跡周辺整備事業

〈第1章〉事業概要

勝連城跡周辺整備事業	04
世界遺産勝連城跡	06
文化観光施設	08
勝連城跡公園	10

〈第2章〉公民連携

公民連携の推進	12
---------	----

〈第3章〉関連情報

沖縄県観光の現状と展望	14
うるま市観光の現状と展望	15
関連する事業	16

勝連城跡周辺整備事業について

栄華を極めた勝連の歴史ロマンを感じる交流空間の創出

沖縄県の観光については、平成30年度には1千万人を超え、6年連続で過去最高を更新する等、好調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きなダメージを受けています。しかし、観光産業については、県経済を牽引するリーディング産業となっており、今後についても、沖縄の自然や歴史・文化・食等の豊富な観光資源を活用した、アフター・ウィズコロナ時代の新たな観光を提案することにより、観光需要の回復を図る必要があります。

勝連城跡は、2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして世界遺産に登録されたうるま市を代表する歴史遺産であり、その保全と活用について年々関心が高まっています。

近年の沖縄の好調な観光状況などを踏まえ、うるま市ではその好調な流れを取り込み、勝連城跡を地域振興の拠点とするため、歴史・文化・観光資源として大きな可能性を秘めている勝連城跡とその一帯を整備する「勝連城跡周辺整備事業」を進めています。

また、本事業では、民間事業者の皆さまと連携する取り組みにより飲食機会、宿泊機会を創出し、周辺地域一帯の観光消費拡大を積極的に進めていきます。

さらに、将来的には、沖縄県が推進している大型MICE事業との連携を視野に入れ、MICE観光客の需要創出やクルーズ船寄港によるインバウンドの獲得強化など、沖縄県全体の観光において「新たな観光拠点」となることを大きな目標として、地域活性化や民間事業者の新たなビジネスの創出につながる仕組みづくりを推進してまいります。

〈第1章〉事業概要

勝連城跡周辺整備事業

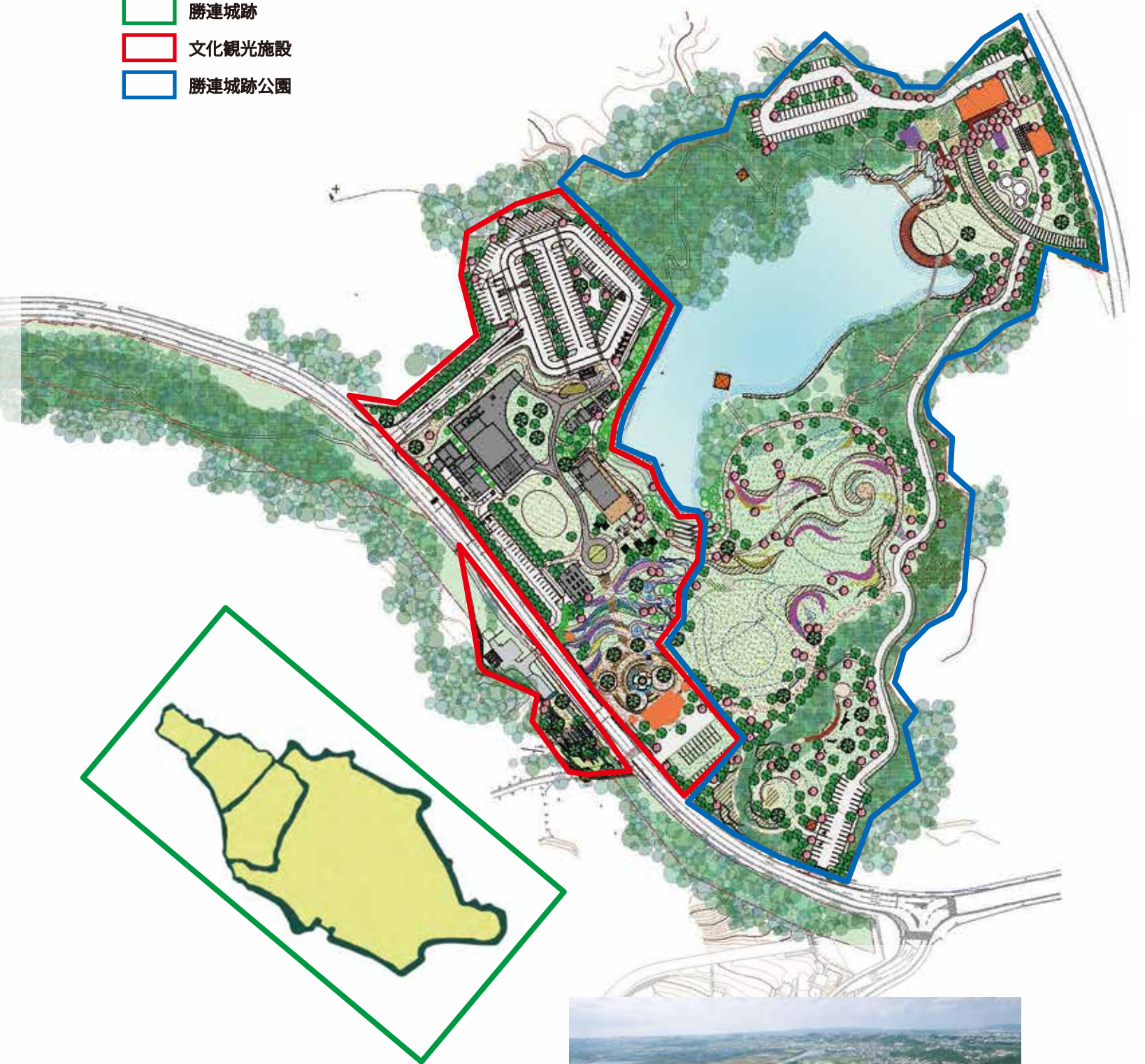
年々高まる観光需要に応える大型事業

世界遺産に登録された勝連城跡は、風光明媚な景勝地として県内でも有数の観光スポットとなっています。うるま市では、歴史文化とのふれあいなど、多くの可能性を秘めた本城跡の利活用を通して地域の活性化を促進させることを目的とした「勝連城跡周辺整備事業」を進めています。本事業は、「勝連城跡」「文化観光施設」「勝連城跡公園」の3施設が効果的に連動し、周辺一帯の誘客力の強化と滞在時間の延長を図り、飲食機会、宿泊機会などの増加による観光消費の拡大をめざしています。



勝連城跡周辺整備事業区域の平面図

- 勝連城跡
- 文化観光施設
- 勝連城跡公園



整備事業 3つの基本方針

歴史を感じる空間づくり

勝連城跡からの出土品などが展示された施設や、阿麻和利の物語をモチーフとしたエンターテインメント性の高いイベントなどをおとして、世界遺産勝連城跡の歴史・文化について、学び・感じることができます。

自然を楽しむ空間づくり

勝連城跡の頂上から見えるコバルトブルーの空と海、地元の特産品を使った食事やお土産、勝連城跡を舞台としたイベントや祭りなど、「うるま」ならではの「ここでしか体験できない」コンテンツを提供し、来訪者が楽しめる場所となります。

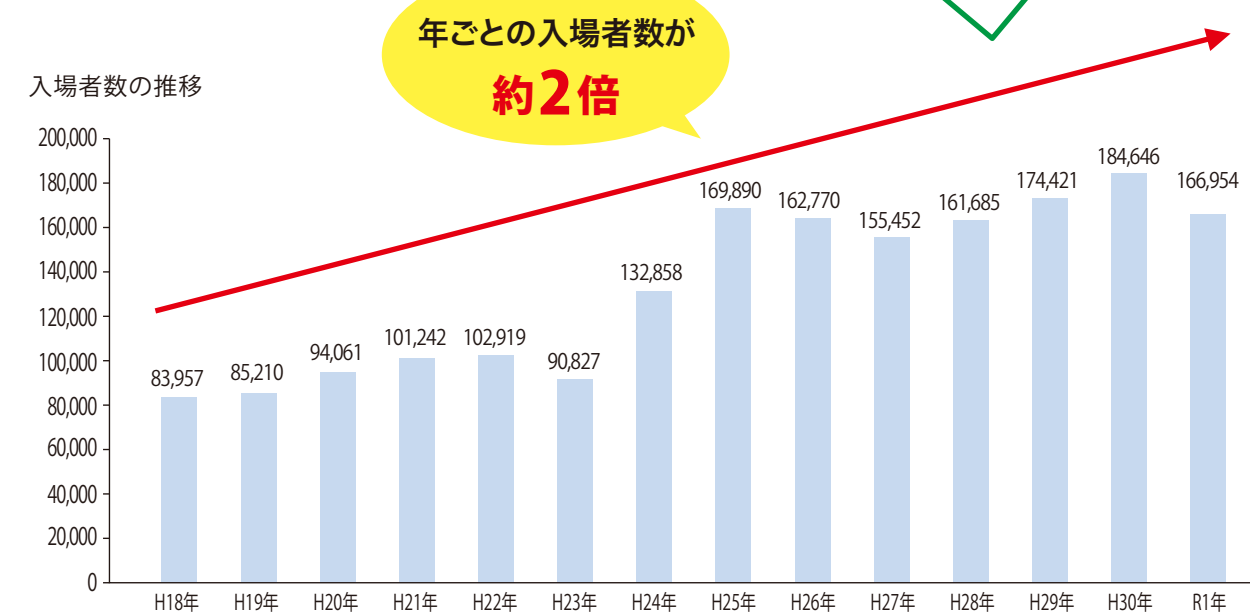
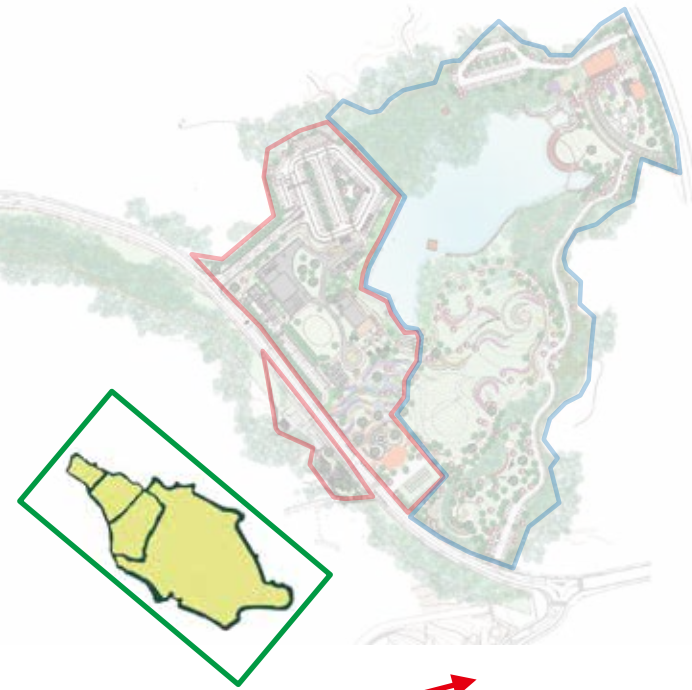
交流を生み出す空間づくり

勝連城跡で開催されるイベントや祭りなどを通して、地域の活性化を生み出します。また、地域住民が歴史ガイドなどとして参加することで、来訪者との交流の場が生まれる新たな観光モデルを創っていきます。



世界遺産 勝連城跡

2000年に「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」として世界遺産に登録された勝連城跡は、来訪者数が年々増えており、世界の旅行好きが選ぶ日本の城ランキングにおいて人気を集めているなど、その知名度と人気は上昇しています。また、国内で初となるローマ帝国のコインが出土するなど、歴史遺産としての期待度もさらに高まっており、県内有数の観光スポットとなっています。



勝連城跡最後の按司：阿麻和利とは？

阿麻和利は、当時、悪政に苦しんでいた民衆と相談し、当時の按司（城主）・茂知附を倒し、按司となり、活発な交易により勝連地域にかつてない繁栄をもたらします。

阿麻和利の勢力に脅威を感じた琉球国王は、重臣・護佐丸を中城城に住ませ、阿麻和利をけん制するとともに、娘の「百度踏揚」を嫁がせました。

天下統一を目指した阿麻和利は、護佐丸を倒し、琉球王府打倒へと動き出しましたが、大城賢雄率いる王府軍の反撃にあい滅ぼされてしまいました。

多くの歴史書では、阿麻和利は琉球王府に歯向かった悪者として扱われていますが、その後の研究によって名君であったと称えられていたことがわかっています。

また、王府が編纂した歌集「おもろさうし」のなかでは、阿麻和利のことが肝高（気高い）と表現されています。



あまわり浪漫の会

地域の子どもの居場所づくりと青少年人材育成を目的に、2000年から開催されてきた現代版組踊「肝高の阿麻和利」。当初、1回限りの公演予定が、出演した子ども達の再演を願う熱意により、「勝連城跡」での再演が決定し、4年目から父母を中心とした「あまわり浪漫の会」も結成され、今に至ります。

2003年には関東公演、2005年には国立劇場おきなわ公演、2008年には初の海外公演『ハワイ公演』、2009年には倉敷・東京・盛岡・福岡公演、そして2019年8月には東京の国立劇場で公演を行いました。2008年には県内初となる朝日新聞社主催の「第十回朝日のび

のび教育賞」を受賞、2009年度には日本ユネスコ協会連盟による「第1回プロジェクト未来遺産」に登録されるなど、その活動は県内外で高く評価されています。

勝連城跡は、地域の子どもの育成の舞台としても愛される貴重な文化遺産です。



文化観光施設

勝連城跡を中心とするうるま市の歴史や文化について、楽しみながら学び体験することができる展示施設を整備します。勝連城跡からの出土品などの展示や、演者が躍動しながら解説するパフォーマンスガイドを配置します。また、うるま市ならではの特産品を使ったお食事、お土産や工芸品を取り扱うショップを併設し、勝連城跡やうるま市の魅力が詰まった空間を創出します。飲食・物販施設の整備・運営については、公民連携（PPP/PFI）手法の導入を予定しています。



飲食・物販・観光案内

イベント空間



地域のイベントだけでなく、県外・海外からの集客が見込まれる多様なイベントを開催します。

ショップ・レストラン



“うるま”ならではの“食”や“モノ”を提供します。ここでしか味わえない体験はいかがでしょうか。

観光案内

うるま市の観光スポットやグルメ、観光体験メニューなど、沢山のうるま市の魅力を紹介します。レンタサイクルを貸し出しますので、自然豊かなうるま市を散策してみたいはいかがでしょうか。



勝連城と阿麻和利の物語をドラマティックに。

ミュージアムとライブステージが融合した、あたらしいガイドス展示を実現します。

展示施設

企画展示室

常設展示では紹介できない情報、世界遺産・勝連城跡や琉球中世史、勝連城跡に関する写真、絵画や最新の発掘調査情報など、好奇心をくすぐられる企画展を開催します。

常設展示室

文化財、写真、映像などを展示して、琉球王国の歴史や「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の概要について、楽しみながら学ぶことができる空間をつくります。そして、勝連城跡の最後の按司・阿麻和利をフォーカスし、勝連城跡への理解を深めるとともに、登城前のワクワク感を高めます。



ライブシアター

阿麻和利の物語を躍動感のある演技で伝えるパフォーマンスガイドを配置することで、これまでにない臨場感あふれる体験型ガイドスを行います。



勝連城跡公園

世界遺産勝連城跡にふさわしい周辺景観を保全・形成する緑化スペースを確保し、地域住民のくつろぎ、憩い、レクリエーションなど交流の場として利用していきます。また、隣接する文化観光施設と連携し、勝連城跡を訪れる観光客のイベント開催の場等としても活用できるなど、総合的な利用を考慮した総合公園として整備を推進します。

公園の整備・運営については、公民連携（PPP/PFI）手法の導入を予定しています。

【公園の機能】

- ももと花園エリア
- 展望の丘エリア
- ユビタ池エリア(水景)
- 自然観察エリア
- 交流エリア

※機能としてのエリアはあくまでイメージであり、公園の整備については、民間事業者からの提案を踏まえて決定します。

※都市公園内において民間事業者との連携を図り、飲食施設や宿泊施設などの可能性を調査・検討しています。

ももと花園



公園内での花々の鑑賞だけでなく、勝連城跡の頂上から眺める景色（紅型の模様など）としても楽しむことができ、文化観光施設と併せて集客力の向上を図ります。



隣接する文化観光施設と連動する仕組みとして、市民や観光客が楽しめるように、コンサート、演劇、飲食イベントなど様々なイベントの開催が可能な整備を進めていきます。



地形を活かしながら、できるだけ造成工事を行わない方針とします。

水景(ユビタ池)



池越しに眺める勝連城跡や、池に写る勝連城跡などを見ることが出来る貴重なビューポイントです。

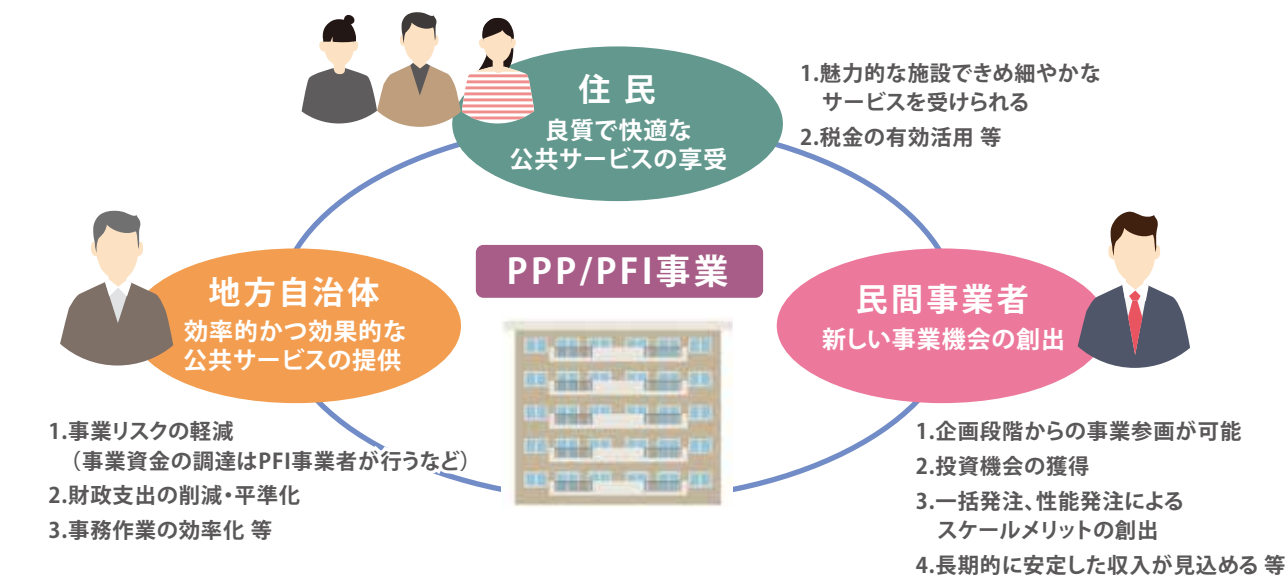
〈第2章〉 公民連携

公民連携の推進

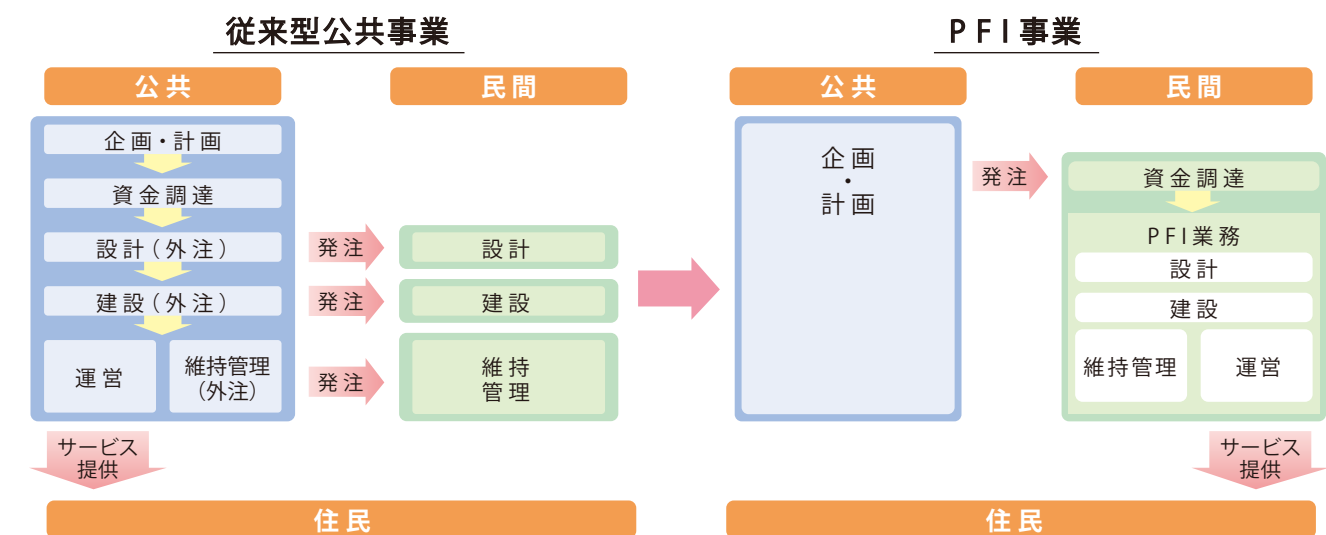
公民連携（PPP/PFI）とは、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金、経営能力及び技術提供を活用し、これらの業務を一体的に民間事業者に委ねること（または「行政と民間事業者の連携により業務を行うこと」）、効率的かつ効果的な公共サービスの実現を図るものであり、全国的に導入が進んでいます。

本市では、PPP/PFIによる効率的な行政運営の推進を目的に委員会を組織し、公民連携に取り組んでいます。勝連城跡周辺整備事業においては、積極的に民間事業者と連携を図り、地域の振興に繋げていきます。

■ PPP/PFIのメリット・効果



■ 事業のイメージ (PFI事業の場合)



※内閣府公式サイトより



※事業計画地内にある既存の変電所（物販・飲食施設建設予定地）については、事業計画地外に移設します。

■ 各施設の事業スキーム (案)

施設区分	対象施設	事業段階	整備		運営・維持管理
			整備手法	費用負担	
勝連城跡	史跡	供用中	既存施設	—	独立採算
文化・観光施設	駐車場・観光ターミナル・展示施設等	施設整備中	公共による施工	公共	
物販・飲食施設	物販・飲食施設	※民間事業者からの提案等により、整備内容を決定していきます。	PFI(BTO)方式	公共	
勝連城跡公園	園路広場等 宿泊施設・売店		PFI(BTO)方式 設置管理許可	公共 民間	



■ 事業スケジュール (案)

施設区分	令和2 2020	令和3 2021	令和4 2022	令和5 2023	令和6 2024	令和7 2025	令和8 2026	令和32 2050
勝連城跡	事業者公募に向けた サウンディング等	事業者の選定・ 指定管理者の指定	供用開始					全部供用開始
文化・観光施設			設計・工事					
物販・飲食施設			供用開始					
勝連城跡公園			設計・工事					
事業期間			用地取得					
	30年間							

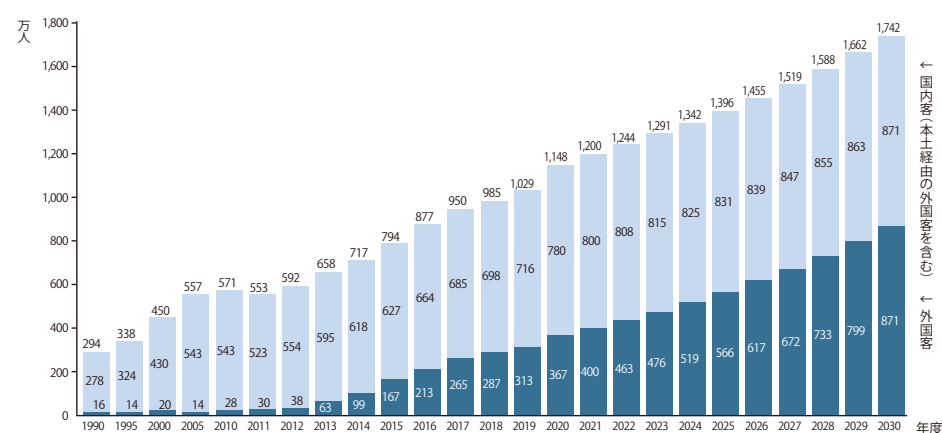
〈第3章〉関連情報

沖縄県観光の現状と展望

入域観光客数は平成30年度には1,000万人を突破!

平成30年度の入域観光客数は初の1,000万人台を記録し、6年連続で過去最高を更新していましたが、令和元年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により、7年ぶりに前年度を下回る結果となりました。しかしながら、沖縄の観光については、国際線と国内線ビルを連結するターミナルビルの供用スタート、第2滑走路の拡張整備、台湾(高雄)・シンガポールなど、海外ー沖縄間における新規路線の就航、クルーズ船の寄港数の増加、大型MICE施設整備予定など明るい材料があり、新型コロナウイルス感染症終息後には、沖縄への入域観光客は、再び増加することが見込まれています。

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローによる推移予測



那覇空港第2滑走路

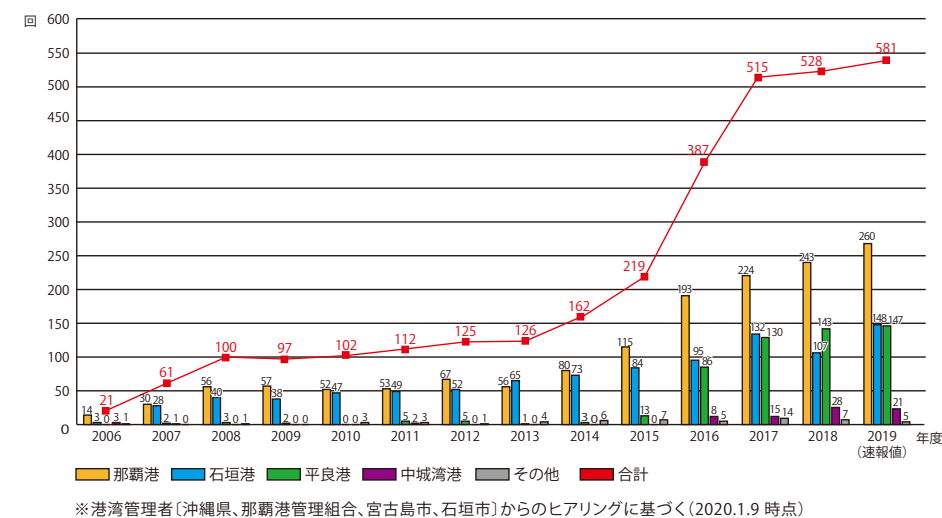


中城湾港新港地区へのクルーズ船寄港

クルーズ船の寄港増加によるチャンス

沖縄県内へのクルーズ船の寄港は毎年増加し続けており、2019年には過去最多の581回の寄港回数となりました。中城湾港では、アジア最大級の16万トン級のクルーズ船が入港する等、観光においても海外に開かれた港として、その重要性が増しています。

沖縄港湾のクルーズ船寄港回数の推移



※港湾管理者(沖縄県、那覇港管理組合、宮古島市、石垣市)からのヒアリングに基づく(2020.1.9時点)



大型MICE施設の整備

世界中の多様な需要に応える大型MICE

アジアを中心に増加するMICE需要を踏まえ、大型展示会、商談会、コンサート、インセンティブ旅行、国際会議など、大型イベントが開催できるMICE施設が東海岸に整備される予定です。本施設は、沖縄観光にビジネスツーリズムという新機軸を打ち出し、人・モノ・情報の流れを活性化し、地域振興に資する沖縄県経済成長のプラットフォームとして期待が高まっています。



うるま市観光の現状と展望

歴史遺産、自然、食、芸能など地域の魅力があふれるまち

美しい海、史跡など、勝連城跡の周辺は観光資源が豊富です!本地域は、かつての琉球を物語る遺跡などが多く、歴史浪漫を感じることができる地域です。2018年11月に地元に穫れた新鮮な食材の販売やそれらを使った料理を楽しむことができる直売所「うるマルシェ」がオープンし、地域の農水産業や観光業の活性化を目指しています。自然・歴史・文化など多種多様な観光コンテンツを活かした体験や滞在時間を提供することにより、訪れる皆様へ感動を与え、何度でも訪れたいような魅力ある観光まちづくりを推進していきます。



伝統やスポーツなど多様なイベントが詰まっています

毎年、旧暦の7月(新暦9月頃)に「うるま市エイサーまつり」が開催されており、県内外から多くの観光客がエイサーを楽しみに来ます。エイサーはお盆の時期に踊られる伝統芸能で、本イベントでは、百年以上の歴史を持つ伝統的な型から現代的な型まで様々なエイサーを楽しめるおまつりとして定着しています。円形の闘牛場で繰り広げられる重量1トン以上もある牛と牛がぶつかり合う迫力満点の「闘牛」は熱狂的なファンが多く、本市が誇る伝統的なイベントです。春の温かい季節になると、美しい海に囲まれた全長4.7kmの海中道路がマラソンコースとなる「あやはし海中ロードレース」が開催されます。透き通る遠浅の海と爽やかな潮風を感じながら走ることができる人気のイベントです。

うるま市年間イベント

3月	あやはし海中ロードレース大会
9月	うるま市エイサーまつり※
10月	うるま祭り
12月	うるま市産業まつり
毎月	闘牛大会

※開催年により8月になる場合があります。

